

## 第44回日本児童文学学会賞の決定について

日本児童文学学会賞、同奨励賞および同特別賞は、わが国の児童文学・児童文化研究の発展に寄与する、年度ごとの優れた業績に贈られます。

今回は、二〇一九年七月から二〇二〇年六月までの一年間に発表された児童文学・児童文化分野に関する研究・評論の中から、日本児童文学学会会員の推薦等をもとに、日本児童文学学会賞選考委員会（土居安子委員長・鶴野祐介・酒井昶代・成實朋子・目黒強の各委員）が選考にあたりました。結果は次のとおりです。

なお、授賞式は、一月一日（土）午後四時二〇分より、オンラインで開催される当学会第59回研究大会の席上にて行います。

二〇二〇年一〇月

日本児童文学学会会長 宮川 健郎

## 第44回日本児童文学学会奨励賞

◇該当作なし

## 第44回日本児童文学学会奨励賞

◇該当作なし

## 第44回日本児童文学学会特別賞

◇赤羽茂乃『絵本画家 赤羽末吉 スーホの草原にかける虹』福音館書店、二〇二〇年四月二五日

【贈賞の理由】本書は、一九八〇年に国際アンデルセン賞画家賞を日本人で初めて受賞した絵本画家・赤羽末吉の生涯を辿った評伝である。手帳や手紙などの一次資料や関係者への取材調査に基づいて、詳細かつ資料的価値の高い年譜を作成し、時系列に沿ってその歩みを丁寧に描出する。三男の妻の立場からの、家族ならではの笑いに満ちたエピソードも交えつつ、起伏に富んだ画家の人生を立体的に再現することに成功している。また、文体や装丁をはじめ、読者への配慮の行き届いた書籍としてのクオリティの高さも評価される。今後の赤羽末吉研究の資料として欠かせない労作であり、特別に意義が認められる研究である。

【受賞者の略歴】一九五二年、東京生まれ。一九七九年、赤羽末吉の三男研三と結婚。住まいを近くし頻繁に行き来しながら、義父末吉の日々の暮らしに触れる。一九九〇年、末吉他界後は、夫と共に遺品の整理に携わりながら、末吉の辿った軌跡とその作品について調査を重ねるとともに、その生涯と作品の魅力を多くの人々に伝えるため、各地で精力的に講演活動をおこなっている。